

『東大塾 社会人のための現代中国講義』を編集して 丸川知雄

私の予想では二〇一四年に中国の国内総生産（GDP）は日本の二倍以上になるでしょう。中国が日本のGDPを抜いたのは二〇一〇年のことですが、その後四年で中国の経済規模は日本の二倍以上にもなりました。

ただ、国全体としてみればもはや中国はまぎれもない経済大国であるとはいえず、一人当たりGDPでいえばまだ日本の五分の程度の中所得国です。政治制度は先進国とは大きく異なっており、国民のなかに大きな亀裂をいくつも抱えているし、日本を含めいくつもの隣国とは紛争の火種を抱え、大気汚染や水不足も深刻さを増すなど、多くの危うさを抱えている国でもあります。私の予測では、無理なく経済成長を続けていけば二〇二〇年代半ば頃には一人あたり所得で高所得国の仲間入りをすると同時にアメリカを抜いて世界最大の経済大国になるはずですが、果たして平和的、安定的にそこまで至るのか、その前途は濃いPM2.5のスマッグに覆われてよく見えません。

二〇一三年秋に、中国の今後一〇年を展望することを主眼とした社会人向けの一〇回連続講座を東京大学で実施しましたが、『東大塾 社会人のための現代中国講義』はそこでの一〇人の講師による講演を収録したものです。「グレッター東大塾」と銘打ったこの少人数講座を実施するにあたって私が考えたことは、講師からの一方的な講義に終始するのではなく、講師と受講者の対話を通じて多面的に中国に光を当てることでした。本書でも各講義の後にかなり長い質疑応答があります。

I 政治

本書の構成と各講義のポイントについてご紹介しましょう。

第1講は「政治 国家体制と中国共産党」（高原明生）です。中国の政治を読み解くポイントは派閥抗争と論争です。中国共産党のなかの派閥とは自民党の派閥のようにメンバーがはっきりしたのではなく、職縁、地縁、血縁などで複雑につながる

人脈の網の目が割と濃い部分だと理解すべきです。また、党内にさまざまな問題での意見の不一致が見られますが、なかでも注目すべきは「普遍的価値」をめぐる論争です。たとえば人権は中国でも尊重されるべき普遍的価値なのか、それとも西側が中国に押し付けようとしている西洋の価値なのかをめぐって中国共産党のなかで深刻な対立がみられます。外交についても強硬派・国粹主義と穏健派・国際主義の対立があります。この背景のもとで、日本が尖閣問題で下手に譲歩しますと、強硬派を勢いづけ、ますます事態の解決を難しくする恐れがあります。

第2講は「民族 『中華民族』の国家と少数民族問題」（平野聡）です。中国の少数民族問題の根源は、清朝という王朝の成り立ちと近代的な国民国家を目指した中華民国以降の国の成り立ちとの間の矛盾にあります。清朝は満洲人が作った王朝です

が、彼らは明朝を倒すためにモンゴルと手を結ぶこととし、モンゴル人が信仰するチベット仏教を保護しました。また新疆のムスリムを味方につけるために、イスラーム文化も保護しました。一方、明朝を倒して支配下に入れた漢族に対しては漢字や儒教などの文化の維持を認めました。ところが、一九世紀に欧米の帝国主義の圧迫に対抗するために国民統合を強めるべきだとの思想が台頭し、漢族の中華文明をチベット、モンゴル、新疆にも受容させようという動きが強まります。それまで政治的、文化的な自律性を維持していたこれらの地域を中華文明に取り込んで強固な国民国家を作ろうとしたところに今日に至る軌轍の根源があります。

第3講は「ナショナルリズム 中華民族の虚と実」（村田雄二郎）です。少数民族を苦しめる原因である「中華民族」のナショナルリズムは、実は日本からの正と反の両方の影響を受けて形

台湾学術文化研究叢書

族群

現代台湾のエスニック・イマジネーション

王甫昌／松葉隼・洪郁如訳
A5判／2500円＋税

「原住民族／漢族」「外省人／本省人」「閩南人／客家人」など「族群（エスニック・グループ）」の関係を論じる。

- 【台湾学術文化研究叢書】全10巻予定
- 1 『現実へ回帰する世代 一九七〇年代台湾文化政治論』 蕭阿勳／小笠原淳訳
 - 2 『偽りのグローバリゼーション』 張小虹／橋本恭子訳
 - 3 『抑圧されたモダンティイ 清末小説新論』 王德威／神谷まり子・上原香訳
 - 4 『孔子廟と儒教 学術と信仰』 黄進興／中純夫訳

- 5 『移動する桃源郷 東アジア世界における山水画』 石守謙／木島史雄訳
- 6 『恋愛風塵 Dust in the Wind 中国の都市、欲望と生活』 李孝悌／野村鮎子訳
- 7 『グローバリゼーション下の台湾「外国人花嫁」現象』 夏曉鵬／前野清太郎訳
- 8 『離散と回帰 満洲国の台湾人』 許雪姬／羽田朝子訳
- 9 『孔子廟と帝国 国家権力と宗教』 黄進興／工藤卓司訳

東方書店

東京都千代田区神田神保町 1-3
tel.03-3937-0300 fax.03-3937-0955
http://www.toho-shoten.co.jp/

成されたものです。中華民族という概念を發明した思想家の梁啓超は、清朝末期に日本で一〇年余り亡命生活を送っています。その時に日本人が出征する兵士を歓迎しながら見送っている姿をみて、強国となるには国のために犠牲となることを是とする精神が必要だと考えました。日本の軍国主義は中国近代化のモデルだったのです。二〇世紀に入ってから日本の侵略が中国のナショナリズムをさらに高めたことはいまでもありません。清朝末期以来の富国強兵の夢、そして侵略された屈辱を雪ぎたい気持ちがあるまま今日の「中華民族の偉大な復興」という目標につながっています。

II 外交・安全保障

第4講は「外交 歴史と現在」(川島真)です。清朝は国民国家ではなく、皇帝を中心に、漢民族が居住する「省」、モンゴルやチベットなどの藩部、その外の冊封朝貢関係にある地域へ、皇帝の支配が漸減しながら広がる王朝でした。しかし、帝国主義の圧迫と、日本などのナショナリズムの影響を受けて、まるでこの全領域がもともと一つの国民国家であったかのような思想が生まれました。一九三八年に中華民国の内政部が作った「中華国恥図」では、沿海州、中央アジア、朝鮮半島、インドシナ半島の全体、沖縄までが本来の中国の領域とされています。これが本来の中国だというコンセンサスがあるわけではないものの、列強によって蚕食された領域を取り戻すということ

高原明生・丸川知雄・伊藤亜聖編
東大塾 社会人のための現代中国講義
A5判・二八八頁・二八〇〇円
東京大学出版会(表示は本体価格)

が中国の外交の基調低音となっています。一九八〇年代以降は経済発展のために低姿勢の外交が行われましたが、自国の発展に自信をつけた近年、再び奪われた領域を取り戻そうという志向が頭をもたげています。しかし、中国が大国化したいま、この基調低音を変えないと中国は脅威になってしまいます。

第5講は「安全保障と海洋進出 意図と能力の解明」(松田康博)です。もともと中国の軍隊は陸の戦力を中心でしたが、国力の増大とともに海洋進出が活発化しています。日本は太平洋へ出ていこうとする中国に蓋をするような位置にあり、そのことが尖閣問題などの摩擦の背景となっています。中国は周辺国との陸の国境に関しては多くの妥協をして問題をあらかた解決しましたが、海の問題では妥協せず、東シナ海と南シナ海で紛争の火種を抱えています。特に二〇〇八年以降、強硬な姿勢が目立つようになりました。北京オリンピックを成功裏に終えたことでもはや低姿勢の外交を続ける必要がなくなったこともその一因です。日本との関係は二〇一四年一月のAPECの場で日中首脳会談が実現したことではばらくは改善の方向に進

むでしょうが、長期的には悪化傾向のなかで悪化と改善を繰り返すことを覚悟する必要があります。

III 経済

第6講は「ミクロ経済 国家資本主義と大衆資本主義」(丸川知雄)です。国家資本主義とは、膨大な数の国有企業と、巨大な国有銀行を通じて国家が経済に強い支配力を及ぼしている状況を指します。近年、西側では中国を国家資本主義とみなすことが流行しています。しかし、そのようなとらえ方ではなぜ中国経済がダイナミックに発展しているのかがよく理解できないと思います。ごくわずかな資金しか持たず、特にこれといった技能もない人たちでもリスクを恐れずどんどん起業していることも中国の重要な側面であり、これを私は大衆資本主義と呼んでいます。二〇〇八年のリーマンショック以後、国家資本

主義を強める方向に中国の政策が振れましたが、二〇一三年秋の中国共産党中央委員会の決定で、国有企業が重要な領域を支配するという方針が撤廃されたことにより、大衆資本主義が国家資本主義を圧倒する時代が来ようとしています。二〇一四年一〇月にニューヨーク証券取引所に株を上場し、時価総額で日本最大の企業であるトヨタ自動車さえ上回ったネット通販会社アリババなどはまさに大衆資本主義のエースと言えます。第7講は「経済の行方 「二つの罍」を乗り越えられるか」(関志雄)です。中期的に見たときの中国経済の課題の一つは「中所得の罍」をどう乗り越えられるかということです。かつて中国は労働力が過剰だったので、低賃金と豊富な労働力を生かした発展によって、低所得国から高所得国へ躍進しました。しかし、その結果、労働力の過剰が解消され、労働力不足と賃金上昇が起きています。ここで発展を停滞させないためには生

東信堂

東京帝国大学の真実

日本近代大学形成の検証と洞察
館昭 精細な歴史検証から浮かび上がる、
日本近代大学通有の問題群。 A5・4600円

子どもが生きられる空間

生・経験・意味生成
高橋勝 子どもの失われた自己生成空間
の真の再生をめざして。 四六・2400円

流動する生の自己生成

教育人間学の視界
高橋勝 流動し続ける「生」と社会生活の
基盤形成を目的とする学校教育一深まる
船の克服には何か必要か。 四六・2400円

アクティブラーニングと 教授学習パラダイムの転換

溝上慎一 大学教育喫緊の課題—アク
ティブラーニング型授業の変革・向上をめ
ざす理論と実践の体系書。 A5・2400円

主体的学び (2号)

主体的学び研究所編 A5・1600円

文明化と暴力

エリアス社会学
理論の研究
内海博文 「文明化」の只中になぜ未曾有
の「暴力」が出現したのか。 A5・3400円

理論社会学

社会学の発展
の媒体と論理
森元孝 既成の理論社会学を超えた
社会体系論の新たな展開。 A5・2400円

豊田とトヨタ

産業グローバル化
先進地域の現在
丹辺宣彦・岡村徹也・山口博史編著
グローバル化最先端都市豊田に見る産業
都市成熟への理念と実践。 A5・4600円

医学の歴史

W・エッカルト著
今井道夫・石渡隆司監訳 歴史・理論・
倫理の統合体としての医学を的確に整理・
活写した定評あるテキスト。 A5・4200円

国際環境条約・資料集

編集委員 松井・富岡・田中・薬師寺・
坂元・高村・西村 ますます緊迫度を加える
環境問題に関する主要文書184件を
網羅した待望の条約集。 A5・8600円

国際刑事裁判所 (第二版)

最も重大な国際犯罪を裁く A5・4200円
村瀬信也・洪恵子共編 その本格的実
行を踏まえ全章加筆修正を行った最新版。

03-3818-5521 FAX03-3818-5514
http://www.toshindo-pub.com
●本体価格表示(税別)

産性の向上が必要であり、技術進歩や産業構造の転換が求められていきます。同時に中国は「体制移行の罫」にも直面しています。独占的な国有企業が既得権益集団を形成し、国有企業の改革を阻害しています。政治の改革もずつと停滞しています。体制移行が罫に落ち込んだように前に進まなくなっているのです。

IV 法・社会

第8講は「法 中国法の枠組みと役立ち方」(高見澤磨)です。中国にはすでに多くの法律があるのに、「法治」が実現していないと言われたり、法が役に立っていないように見えるのはなぜでしょうか。一つの理由は中国の立法過程にあります。中国では新しい制度を始めるときに、まず法律を作るのではなく、最初は地域や分野を限定して新しい制度が試され、次に党和国家の政策でその制度が是認されます。つまりその時点では法の裏付けなく実態が先行しているわけです。その後ようやく法律が成立するというプロセスを採ることが多いです。また、司法は独立しておらず、立法府である人民代表大会の下にあります。地方の司法機関の人員費は地方財政で賄われていますので、地方によっては資金不足で司法がはなはだ頼りないこともあります。

第9講は「社会の変化 和諧社会実現の理想と現実」(園田茂人)です。中国で激しい反日デモが起きると、「これは貧富

毛里和子・園田茂人編 中国問題

キーワードで読み解く

四六判・三六〇頁・三〇〇〇円

東京大学出版会(表示は本体価格)

の格差や政治への不満が形を変えて現れているのだ」と解説される可能性があります。いずれそうした不満は直接に政府や社会に向かつて爆発するのでしょうか。天津の住宅地で一九九七年から二〇一〇年にかけて継続的な意識調査を行った結果によれば、所得額は増えているにもかかわらず、六割前後の人が自分を「下層」「中の下」とみなしている構造に余り変化はなく、党・政府への不満が特に高まっている様子も見られません。人々の所得が増え、学歴も高くなっていますが、民主化を求める声がより強まっているわけではありません。継続的な定点点観測を見る限り、人々の不満が爆発寸前だとは言えません。

第10講は「公民社会 民主化の行方」(阿古智子)です。中国では近年ツイッターに相当するウェイボーや、LINEに似たウェイシンが広まり、当局の監視の目をくぐり抜けて、強制立ち退きに遭う農民など弱者の声がここうした新しいメディアに乗って広まっています。権力者を監視する道具としてもインターネットが活用されており、ネット民たちによって役人の豪勢

で墮落した生活ぶりが暴露されたことによって汚職が発覚したケースもあります。三権分立や言論の自由といった権力の濫用を防ぐメカニズムのない中国社会で、権力の濫用を食い止めるために弁護士たちが奮闘しています。弁護士たちは権力に圧迫されている弱者のために立ち上がっており、その姿に民主化への光明が見えます。

*

さて、本書を通読することで中国の前途を覆うスモッグが少しでも晴れるでしょうか。概していえば、本書の前半の政治や外交・安全保障にかかわる五つの講義では、変わってほしいがなかなか変わってくれない中国、あるいは昔から伏在していたネガティブな側面が再び頭をもたげてきた中国の姿が描かれるのに対して、後半の経済や法・社会に関する五つの講義では、いろいろ課題はあるものの、良い方向に変わろうとしている、

あるいは変わる兆しもみられる中国の姿が描かれる傾向があります。中国がどのような方向に向かうかは中国自身の内発的な要因による部分もあるでしょうが、周りの国がどのような対応をとるかにも影響されるでしょう。中国の保守派・ナショナリストの新聞として知られる「環球時報」と日本の「産経新聞」が盛んに互いを引用しあっているという話が本書にも出てきますが、中国を挑発することで強硬論の炎に油を注ぐこともできれば、平和的、協動的、民主的な発展を促すような方策もあるはずですが、中国に対してどのような戦略を持つべきかという課題に対する講師の考えは質疑応答のなかでとところどころ示されていますが、本書全体としては回答できておらず、今後の宿題として残されています。

(まるかわ・ともお 中国経済)

幕末・維新の 西洋兵学と近代軍制

大村益次郎とその継承者
竹本知行著

近代化を推進した軍隊創設の軌跡を大村らの動向に辿り、政治史上の特性を探る。

本体 6,300円

風俗絵画の文化学 III

瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編
「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果(13篇)をまとめたシリーズ第3弾。

本体 7,000円

中世寺院社会と民衆

衆徒と馬借・神人・河原者
下坂守著

延暦寺の活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察する。

本体 7,500円

日本中世の 地域社会と仏教

湯之上隆著

写経や法会等にみられる宗教行為がもつ社会性を宗派・教団の枠を越えて具体的に考察する。

本体 8,000円

平家物語生成考

浜畑圭吾著

平家物語諸本の比較を通して物語生成の動機や場、背景をつぶさに考察する。

本体 7,000円

季刊広報誌 鴨東通信

インタビュー・エッセイなど読み物と新刊情報。無料送付。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355
☎075(751)1781(表示価格は税別)